

(様式2)

授業科目 成人言語障害学Ⅰ

科目コード番号

【担当教員名】 渋谷直樹	対 象 学 年	2	対 象 学 科	言語
	開 講 時 期	後期	必修・選択	必修
	単 位 数	1	時 間 数	15
【概要】 脳損傷によって成人に発生する言語・コミュニケーション障害（失語、および右半球損傷、痴呆、頭部外傷などによるコミュニケーション障害）の特徴と、その評価・診断手続きについての概略を理解する。また、それらの障害の治療・リハビリテーションの過程について理解し、他の専門職種との連携のあり方について認識を深める。				

【使用図書】

教科書・参考書等	書 名 等	著 者 名	発 行 所	発行年・価格・その他
教科書	脳卒中後のコミュニケーション障害	竹内愛子、河内十郎編著	協同医書出版社	1995年、5600円 ISBN: 4-7639-3009-5
参考書				
その他 (プリント等)	適宜配布する			

【評価方法】

出席状況・授業態度（質問・意見・レポートなど）に20点、期末試験に80点を配点し、100点満点で評価する。

【履修上の留意点】

【本科目の一般教育目標: GIO (General Instructional Objective)】

成人脳損傷者のリハビリテーションにおけるチームアプローチに専門職として参加するため、成人の言語障害の特徴や、評価・鑑別の方法を学習し、また言語リハビリテーションの過程を理解することによって他の専門職種との連携のあり方の重要性について認識を深める。

【行動目標: SBO (Specific Behavioral Objectives)】

1. 失語学の生い立ちについて説明し、その発展の経緯を述べることができる。
2. 失語の発生のメカニズムについて、原因疾患と病巣を中心に整理して述べるができる。
3. 失語の言語症状を説明するとともに、他から鑑別して同定し、かつ複数の言語症状の重なりを識別できる。
4. 失語の分類を列挙しその特徴を述べるとともに、典型例については他から鑑別して同定できる。
5. 失語と鑑別すべきコミュニケーション障害について列挙し、主な鑑別点を説明できる。
6. 失語の検査・評価方法の手順を説明し、主な検査法を列挙できる。
7. 失語のリハビリテーションの流れについて、チームアプローチの観点から説明できる。
8. 失語の予後について概略を説明できる。

授業計画

教室

回数	授業内容	SBO 番号	担当 教員	教授学習法	学習課題 又は 備考
1	失語学の生い立ちと発展	1	渋谷	講義	OHP, プリント
2	失語の発生メカニズムとその言語症状	2, 3	渋谷	講義	OHP, プリント, VTR
3	失語の言語症状と失語分類 (1)	3, 4	渋谷	講義	OHP, プリント, VTR
4	失語の言語症状と失語分類 (2)	3, 4	渋谷	講義	OHP, プリント, VTR
5	失語近縁のコミュニケーション障害とその鑑別	5	渋谷	講義	OHP, プリント, VTR
6	失語の検査・評価の手順と主な検査法の特徴	6	渋谷	講義	OHP, プリント, VTR, 検査器具
7	失語のリハビリテーションの流れと失語の予後	7, 8	渋谷	講義	OHP, プリント

その他